

ペースも設けています。さらに、軽食、売店コーナーの出店者の斡旋や、納涼夏祭りなどイベント広場での様々なイベントの企画を地元商工会に委託し、みなさんに元気になっていただく拠点施設となることをめざします。この温浴施設は平成17年度の完成を予定しており、いなべ市の直営事業として進めます。

2-7 高齢、障害者福祉

国は平成18年度の介護保険の見直しの中に、予防と介護状態の改善を重視した施策を盛り込みました。市町村にサービス内容を評価し、改善させるマネジメント・システムが導入され、介護状態の改善が見込まれる方には、新たな予防給付を実施するとともに、要支援、要介護のおそれのある高齢者には介護予防事業を実施することになります。

これら介護予防事業を進めるには保健活動や地域福祉との連携を強めるとともに、ボランティア活動の育成を図るなど、地域における支援体制を確立することが欠かせません。

いなべ市の介護、新予防サービスの拠点を考えたとき、昨年竣工した藤原の「いこい」と北勢には阿下喜温泉が計画されていますが、員弁、大安地区には拠点がなく、この空白地域を埋める必要があります。また、大安老人福祉センター、員弁老人福祉センターは老朽化しているだけではなく、設計が現在の福祉ニーズを想定していないため、福祉サービスを続けるためには建て替えに近い大改修が避けられません。

従って、新予防サービスや要介護デイサービスの員弁、大安地区の拠点として、また、市全体の身体障害者デイサービス、ボランティアセンター、保健センター、療育センター、精神相談や家庭児童相談の場などの機能を備えた総合的な保健福祉センターが新たに必要です。平成17年度の基本設計、平成19年度の運営を目標に検討を始めます。

また、平成17年3月から、たんぽぽ作業所、ふじわら作業所、コスモス作業所が支援費制度の適用を受けることができる知的障害者通所授産所に登録されました。このことにより支援費制度を利用したサービスの向上が期待されます。

ところで、たんぽぽ作業所、ふじわら作業所は新しく建て替え又は改修が行われましたが、コスモス作業所、バンブーハウスは老朽化が著しく建て替えが必要です。特に、バンブーハウスは、いなべ市の

知的障害者の拠点施設として運営されていますが、定員を超える申請もあり、早急な建て替えが必要です。しかし、国の補助金が難しい状況の中で、財政的には合併特例債を適用した公設民営方式も視野に入れて検討する必要があると考えます。



たんぽぽ作業所

III 教養を深め、文化の香りの高いまちづくり

3-1 いなべの教育

昨年の員弁中学校の朝読書での文部科学大臣賞の受賞をはじめ、中里小学校の花壇づくりの三重テレビ賞、立田小学校の蛍の里づくりと大安中学校テクニカルボランティア部の地域環境保全功労者表彰、笠間小学校6年生のバケツ稲づくりコンテストの文部科学大臣賞受賞、西藤原小学校のソニー教育財団からの受賞、また、個人の部門でも書写や絵画など様々な分野で大臣賞受賞や日本一が生まれています。これら素晴らしい取り組みを誇りに思います。

今後とも、恵まれた自然とのびのびとした環境の中で保護者や地域の人々と共に育む開かれた学校づくりと、基礎基本の定着、体験活動を重視した総合的な学習や人権教育などの充実を図り、生きる力や創造力、思いやりの心をもった人間性豊かな児童生徒の育成に努めます。

近年発生した学校内での殺傷事件は、児童生徒のみならず教職員の安全確保まで考えさせられます。学校を中心とした地域への支援を拡大するとともに、昨年、全児童生徒に配布した防犯ブザーを新1年生にも配布し、登下校の安全確保を進めます。

また、学校教育の振興発展や教職員の資質向上を図るための研究機関として「いなべ市教育研究所」を平成18年度に開設することを目標に準備を進めます。